

5. 東海（地域別調査機関：（株）UFJ総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他住宅投資 の動向を把握で きる者〔室内装 飾業〕（経営 者）	販売量の動き	・新築物件、一般客の受注とも増加している。
	やや良く なっている	スーパー（経営 者） 乗用車販売店 （経営者） 住関連専門店 （店員） その他専門店 〔雑貨〕（店 員） 都市型ホテル （スタッフ） 旅行代理店（従 業員） 通信会社（企画 担当）	お客様の様子 来客数の動き 販売量の動き 来客数の動き 販売量の動き 販売量の動き お客様の様子	・客は商品を幅広く購入するようになっている。従来は安い物だけを購入していたが、最近では衝動買いがみられるようになっている。 ・新型軽自動車を発表し、展示会開催時の来店客が増加している。 ・話題性のある商品を中心に、店全体としては前年より売上高は良い。ただし、家庭用品や定番的な商品は下降気味である。 ・来客数の対前年比が、依然として2ケタの伸びを示している。 ・宴会利用は少ないが、会議や宿泊での利用は結構ある。 ・中国への観光旅行や業務渡航の取扱が増加している。 ・キャンペーンの最終月でもあり、新規申込、問合せなどが多い。
	変わらない	商店街（代表 者） 商店街（代表 者） 一般小売店〔土 産〕（経営者） 一般小売店〔土 産〕（経営者） 百貨店（売場主 任） 百貨店（売場主 任） 百貨店（企画担 当） 百貨店（販売促 進担当） スーパー（経営 者） スーパー（店 長） スーパー（店 長） スーパー（店 員） スーパー（総務 担当） コンビニ（エリ ア担当） コンビニ（エリ ア担当） コンビニ（エリ ア担当） 衣料品専門店 （企画担当）	単価の動き 販売量の動き 単価の動き お客様の様子 お客様の様子 来客数の動き 販売量の動き 販売量の動き 競争相手の様子 単価の動き お客様の様子 お客様の様子 来客数の動き お客様の様子 単価の動き それ以外 単価の動き 単価の動き	・来客数はやや増加しているが、客単価が低い。 ・販売量が低い状態で推移している。 ・必要な物を必要なだけ買うという姿勢が継続している。 ・客は相変わらず非常に慎重な買い物をしている。 ・店頭では、買わずに品定めをしている客が多い。その後その客が実際に買うということは稀である。 ・昼間の来客数はあまりないが、17時以降の来客数が増加しており、購買力につながっている。しかし客単価は低い。 ・来客数は前月から前年を上回っているが、購買にはつながっておらず、秋冬ものの衣料の売上が低迷している。 ・来客数は堅調に推移しているが、シーズン当初は好調であった婦人服が今月は低迷している。紳士服は相変わらず不振である。 ・広告合戦がし烈になり、商品単価がますます低下している。 ・バック詰めの商品を購入する際、余分が出ぬよう家族の人数に合った商品を選び、出費を抑えようとする傾向が明確に出ている。 ・売場改装して新規オープンしたため来客数、売上は増えているが、従来客が多く新規客は少ない。 ・地場野菜が出回り始めているが、一人あたりの単価が低い。 ・3か月前と比較して、来客数が6%減少している。 ・客単価の下落が続いており、売れる商品は低単価商品が目立つ。本部からの新規投入商品にも、低単価商品が目立つ。 ・売上の対前年比は95%だが、来客数は前年並みであり、客単価、買上点数は相変わらず落ち込んでいる。 ・売上は対前年比で約97.2%と前月より改善している。しかし、客の購買意欲は横ばいである。 ・来客数は少し増加しているが、客単価が低い。 ・単価が低下している商品と上昇している商品に両極化しているが、少し前までのようにすべての商品単価が下落することはなくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（従業員）	単価の動き	・家電製品は全般的に単価が下落しており、特に冷蔵庫は昨年より1割ほど下落している。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・販売量は前年と変わっていないが、小型化している。 ・車検や点検費用を安く抑えようとする客がいる。
		その他小売〔貴金属〕（経営者）	単価の動き	・客の購買意欲は多少あるようだが、客単価は以前よりもずっと低下している。不安が先立つようである。
		高級レストラン（経営者）	単価の動き	・夜の法人利用が低迷しており、客単価は依然として低下している。 ・ランチ客は増加しており、安くて良いメニューであれば集客できるため、客の所得の問題が大きいと思われる。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・料金が高いと値引きを求める客が増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・電車による来客数は微増であるが、観光バスによる来客数は減少している。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客単価が上がってこない。販売量が同じでも販売高が少なくなる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・飲屋街が閑散としており、飲食店の経営者や従業員でこれまで美容院に行くにもタクシー利用していた人が、利用しなくなってきている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・携帯電話の買い替え価格が新規販売価格より高いため、新しい携帯電話を買う際に価格の安い新規契約に流れる傾向が強い。
		ゴルフ場（経営者）	競争相手の様子	・9月の愛知県全体の来客数は対前年比5%のマイナスであるが、25%マイナスになったところから20%プラスになったところまであり、バラツキが目立つ。
		その他レジャー施設〔劇場〕（職員）	販売量の動き	・団体の来場件数は増えているが、1団体当たり的人数が少なくなっている。
		その他サービス〔パチンコ機器製造販売〕（エリア担当）	販売量の動き	・新製品が出ているものの、前年比プラスにはならず、横ばいである。
		やや悪くなっている		商店街（代表者）
商店街（代表者）	お客様の様子			・来客数は減少していないが、客単価が低下している。実用品中心で、遊び心のある商品の販売量が少し減っている。
一般小売店〔電気屋〕（経営者）	単価の動き			・チラシを入れても、値引きを上回る売上が見込めない。
百貨店（外商担当）	お客様の様子			・以前にも増して来客数が少なく、どれほど勧誘しても来店してもらえない。
百貨店（売場担当）	それ以外			・客単価の低下もそうだが、全体の売上が対前年比で95%と持続的に減少している。
スーパー（店長）	来客数の動き			・来客数、客単価は低下傾向である。 ・特売商品も販売量が以前より下回っている。高品質、増量商品も予定ほどは動かない。適量、適正価格の商品を求める堅実な買物態度がみられる。
スーパー（店員）	単価の動き			・季節的な要因を差し引いても、生鮮食料品の客単価が低下している。生鮮食料品の買い控えが起きている一方で、一般食の売上は増加気味である。全体としては下降気味である。
コンビニ（店長）	販売量の動き			・チョコレートを含め、菓子の新製品の動きがあまり良くない。おまけ付きのお菓子もひと頃の勢いが無くなっている。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子			・暖かい日が続いたため、高単価のジャケットが前年の20%ほどしか売れていない。
家電量販店（店員）	販売量の動き			・新製品の発表があっても関わらず、販売量が増加してこない。
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・小型車中心の販売は相変わらず続いており、特別仕様車による利益率の低下も著しい。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（総務担当）	競争相手の様子	・どこのディーラーも売れているのは小型車ばかりなので、台当りの利益が大きく低下している。 ・月次ペースで赤字会社が増えている。
		住関連専門店（店員）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、客単価が低下している。気温が高く暖房用品が売れていないこともあるが、対前年実績を下回っている。
		住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・公共の建物、民間の設備投資、一戸建ての住宅等、建築業界全体が悪化し、価格競争が厳しくなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・色々な手を打っても、来客数が増加してこない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊の稼働率は良いが、単価が低下している。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・宿泊者数、昼食者数、夕食者数、婚礼数いずれも弱含みで推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・休み明けの乗車回数、売上が激減している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・深夜になると客待ちの時間が1時間半、2時間ということが度々ある。
		タクシー（営業担当）	単価の動き	・来客数は同じでも、客単価が低下している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・秋口から来客数が減少している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が長くなってきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期がかなり開いてきている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・分譲住宅の売行きが鈍化している。
		住宅販売会社（企画担当）	お客様の様子	・客が分譲住宅に見学に来てても、雇用不安や収入不安からなかなか購入の意思決定をしない。
		悪くなっている	スーパー（店員）	販売量の動き
	自動車備品販売店（経営者）		お客様の様子	・消費者がより安くより良い商品を探しているため、客単価の低下に拍車がかかっている。
	高級レストラン（スタッフ）		来客数の動き	・販促イベントに対する顧客の反応が弱く、来客数が回復しない。客単価も弱含みである。
	設計事務所（経営者）		販売量の動き	・今月はまるきり仕事が無い。
	設計事務所（営業担当）		競争相手の様子	・同業他社も軒並み売上を低下させている。リストラやワークシェアリングでしのいでいる。
	企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き
電気機械器具製造業（経営者）			受注量や販売量の動き	・国内販売に特需があり、販売量が大幅に増加している一方で、輸出は相変わらず低調である。
建設業（企画担当）			受注量や販売量の動き	・中部国際空港、愛知万博、都市再生特別措置法に伴う都市再生プロジェクト関連の工事が始まってきている。ただし、一般的に工事規模が小さく、受注量も少ないため、厳しい状況が続いている。
新聞販売店〔広告〕（店主）			受注量や販売量の動き	・百貨店、スーパーのチラシが上向き、サービス業は2ケタの伸びを示している。
変わらない			窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は一向に回復せず、むしろ減少傾向にある。
			電気機械器具製造業（従業員）	取引先の様子
		電気機械器具製造業（従業員）	取引先の様子	・先行き増産の見込みがないため、取引先でリストラが行われている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・平成14年度の取扱物量は4月以降前年割れが続いている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・トラックの積み荷台数、輸送台数、受注台数とも、ほとんど変わらない。運賃値下げ要求もない。
金融業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量や契約数が増加してこない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・同業種の中で勝敗が分かれてきているが、「負け組」の財務内容が悪化してきており、当行も含めた金融機関の対応も厳しくなっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・土地取引件数の減少は続いている。
	やや悪くなっている	金属製品製造業（社員）	取引先の様子	・取引先の倒産など、信用面での不安が増大している。一方で、銀行の融資姿勢にも、いつ態度が変わるかと不安を感じることも多い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・金融機関へ融資を依頼しても、業績見通し等を詳細に質問されて、本題になかなか入れない。
		一般機械器具製造業（販売担当）	取引先の様子	・有力だといわれていた引き合いが、何件かキャンセルになっている。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・取引先企業は紙質や色数等を減らしており、予算削減に積極的である。 ・新規受注があっても単発であり、後が続かない。
	悪くなっている	非鉄金属製品製造業〔鋳物〕（経営企画）	受注価格や販売価格の動き	・単価の下落が顕著になっている製品がある。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量はある程度確保できているが、受注単価と受注規模が小規模になっており、採算が悪化している。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大手の荷主からの運賃値下げ、物流システムの見直しなどによる物流コスト削減の要請が多い。
		公認会計士	取引先の様子	・会計事務所の取引先の業況が一段と悪くなっている。業況が上向きになっている業種がない。 ・地元の銀行、特に都市銀行から貸出先へのアドバイス等がない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・大型求人広告は対前年比105.9%と14か月ぶりに100%を超えており、3か月前と比較して120.7%と大幅に伸びている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・広告申込件数は、一進一退ではあるが、10ポイントほど改善している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は3か月前に比べて0.14ポイント上昇している。 ・ただし新規求人は、輸送用機械製造業は引き続き増加しているが、建設業は横ばい、卸小売業、サービス業は減少し、全体では10.7%の減少となっている。
	変わらない	アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・自動車と携帯電話の生産が好調である。 ・求人数は増加傾向にある。しかし、労働者のスキル面でミスマッチがあり、雇用に結びつかないことが多い。
		職業安定所（管理部門担当）	求職者数の動き	・有効求職者数は依然としてやや増加している。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・新規の派遣要請がほとんど無く、派遣社員にも採用中止の傾向が強い。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・大口派遣先では値下げ要求が非常に強くなっている。 ・小口派遣先では人数を削減する動きが非常に顕著になってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業を中心に、正社員よりも業務請負求人が増えているほか、契約社員や臨時、アルバイト採用が増加しており、雇用調整が進んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・8～10月の求人件数の動きは、対前年度比で20%減である。
悪くなっている	-	-	-	